

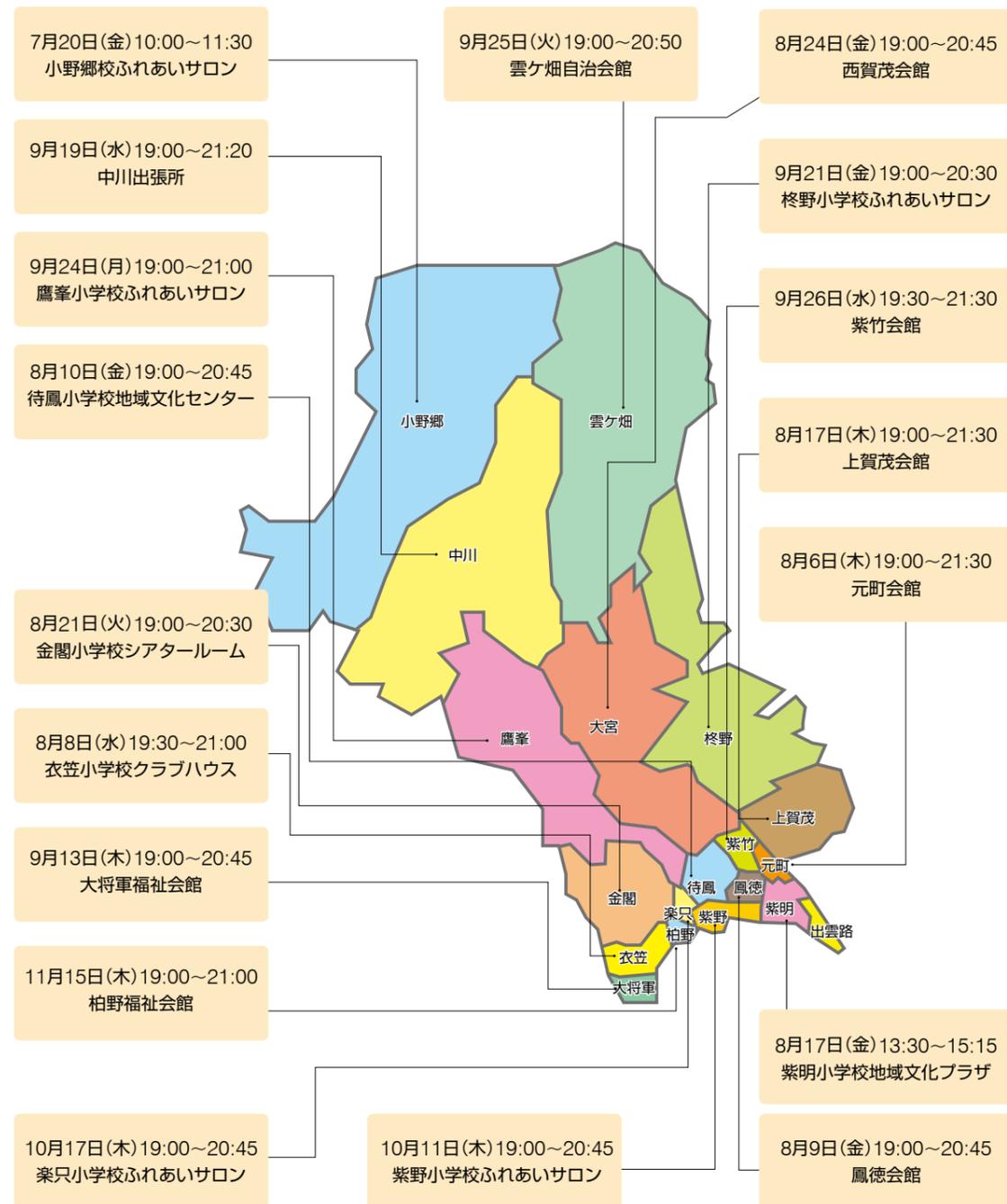
3 各学区における地域福祉活動の状況

本計画の策定にあたり、18学区社協との懇談会を実施し、各学区の現状と課題をお聞きしました。

また、北区の関係機関のネットワーク会議においても、聞き取りを行いました。

各学区社協懇談会の実施状況

*平成24年7月～11月実施



上賀茂学区 「支え合う地域づくりをめざした福祉教育」

上賀茂学区では、「支えあう地域づくり」の一環として、次代を担う子どもたちへの「福祉教育」を事業計画の重点項目に置き、積極的に取り組みをすすめています。



車いすバスケットボールチームとのふれあいを通じて身体障害の理解を深める授業

平成23年度は、「共に生きる」という年間テーマを軸に、小学校・関係機関と連携し、授業づくりをすすめてられました。授業にはさまざまなゲスト講師を招き、障害のある方々ともふれあいながら、子どもたちも地域に誇り一員として「何ができるか」を考え、行動につなげておられます。また、こうした取り組みは、大人にとっても福祉について学ぶ機会になり、取り組みをまとめた報告冊子の作成や、広報誌やホームページの発信もあわせ、地域や社会に想いをつなげながら、少しずつ「支えあう地域づくり」の輪を広げられています。

大宮学区 「災害に備えた見守り活動の推進」

大宮学区では、「防災と福祉のまちづくり講座」や「まち歩き」、「防災マップ」の作成などの取り組みをとおして、日常の地域の結びつきを強める必要性を感じ、「大宮ほっとかへんで運動」が進められています。これは、お一人暮らしや身体の不自由さを感じる方（災害時要配慮者）と、困ったときの助け合いに協力いただける方（近隣支援者）とを組み合わせ、見守り活動の充実をはかることにより、誰もが安心・安全に生活できるしくみをつくろうというものです。



一人暮らしの高齢者の方と一緒に散歩する学生

また学生が多いという地域特性を活かし、企画から実施にいたるまで学生を巻き込んですすめられているこの取り組みが、地域全体での顔の見えるつながりづくりのツールとなり、いざというときに備えたネットワークへとつながっています。

鷹峯学区 「地域の福祉施設との連携」

鷹峯学区は、地元の福祉施設と連携して活動されています。



平成24年度よりスタートした子育てサロン

健康すこやか学級は、地域介護予防推進センター併設の介護老人保健施設「がくさい」を会場として、また、子育てサロンは鷹峯保育園（学区内の3ヶ園で、年度ごとに会場を交代する予定）を会場として開催されています。

もちろん、会場や設備の提供だけでなく、専門的視

点からのアドバイスや協力もいただきながら、事業をすすめられています。また、高齢者のグループホームでは、利用者が地域のイベントに参加されるなど、それぞれの施設が、地域の一員として利用者を支援されています。

このように、地域と施設の結びつきが強い学区ですが、平成24年度より、学区内の福祉施設や学校も学区社協の構成団体となり、さらなる連携の強化がはかられました。

衣笠学区 「いつでも楽しい健康すこやか学級」

衣笠学区の健康すこやか学級は、地域の専門機関による介護予防の取り組みのほか、開催時期や季節にあったタイムリーなテーマ、文化や学習をテーマとしたさまざまな講座をプログラムに取り入れられています。

最後は、懐かしの歌を歌います。スタッフとして関わっているピアノの先生から歌詞の内容や曲が生まれた経緯などを説明され、そのあと、先生のピアノの伴奏に合わせてみんなで歌います。参加される方の多くが、歌うのを楽しみにされています。

また、開催月に誕生日をむかえられる方に、参加者・スタッフで「ハッピーバースデー」を歌ってお祝いするコーナーも始められました。お祝いされた方からは、満面の笑顔が見られました。

このように、「参加してよかった!」と思っただけけるよう、スタッフの方々は工夫されています。

金閣学区 「健康すこやか学級の会場を増やしました」

金閣学区は、北区の中でも人口が多い学区ですが、エリアが広いので、地域性もさまざまであることが大きな特徴です。

その中で、金閣原谷地域は、学区の中心部から離れ、山を超えたところに位置するため、交通の便など学区の中心部とは異なる生活課題があります。そのため、金閣原谷に住む高齢者の方々は学区の中心部で開催される健康すこやか学級に参加しにくい状況にありました。

そこで、学区社協は、金閣原谷に住む方も参加しやすいよう、地元の介護老人保健施設「ライブリキぬかけ」の協力のもと、その施設を会場に健康すこやか学級を始められました。

中心部で開催される健康すこやか学級と同じく、たくさんの方々に参加していただき、大きな盛り上がりを見せています。

大將軍学区 「チラシをツールに見守り相談活動」

学区の65歳以上の独居高齢者及び高齢者のみ世帯を対象とし、訪問販売や熱中症などの日常生活において注意すべき事柄を記載した手づくりの「おせっかい通信」。大將軍学区では、このチラシを手渡しし、さまざまな相談に応じるという見守り相談活動を実践されています。

この取り組みは、高齢者の孤独死をはじめとした危機的状



「おせっかい通信」

況の未然防止や早期発見をはかるだけではありません。対象者一人ひとりに手書きでの宛名書き、視覚に障害のある方への点字版チラシの作成、定期的な発行、タイムリーで身近な情報の周知など、さまざまな工夫をされています。さらには訪問者との人間関係の構築によって、高齢者が大將軍地域に親しみや温もりを感じ、孤立感・不安の解消につながる取り組みとなっています。

待鳳学区 「小学校やPTAとの連携による学区社協活動」

待鳳学区では、平成23年度に「防災と福祉のまちづくり講座」を開催されました。講座では、防災について、日頃からの住民間のつながりづくりと、そのために若い人たちにも防災について関心を深めていただくことが大切であるという意見が上がりました。

そこで、学区社協、小学校やPTA、自主防災会や消防分団、各種団体の協働により、「子ども防災EXPO」が企画・実施されました。これは、子どもを中心とした住民が参加する、防災に関する体験型のプログラムです。

この取り組みは、防災への意識を高めていただくきっかけとなり、地域の中での出会いの機会にもなりました。

学区社協が学校、PTAと一緒に取り組んだことは、学区社協を若い人たちに広く知ってもらえたという収穫もあり、若い人たちが地域活動へ参加するきっかけにもなります。



地域のかで取り組む、「子ども防災 EXPO」

紫竹学区 「地域の人と人がつながる仕組みづくり」

退職後に今までの経験や趣味を活かせず、地域で孤立してしまうケースを懸念し、男性を中心に設立された「紫竹ローマクラブ」。ゴルフ、ネイチャー、麻雀、料理といったさまざまな趣味・嗜好を目的とした17種のクラブが順次発足されました。今では女性のメンバーも多く入会され、和気あいあいと活動されています。

これは、地域に顔なじみを増やし、元気に楽しく第2の人生を暮らしてもらうだけでなく、クラブの活動を通して集まった仲間とともに、地域活動に携わるきっかけづくりも目的とされています。

趣味から始まる地域参加という新たな地域の自治を支えるユニークな取り組みが、地域の人と人とのつながりを生み出し、豊かな人生が開けることを望まれています。

鳳徳学区 「地域資源を有効活用した子育て支援」

学区内にある紫野児童館。ここでは地域の役員さんたちが中心となった子育てサロン「ぴよっこひろば」が開催され、鳳徳学区に住んでいる0～3歳までの乳幼児親子が安心して集う居場

所となっています。日頃から顔を合わせる地域の中で、子どもの成長を共に喜んでくれたり頼れたりする存在が身近にいるという実感、また場合によっては専門的な悩みを相談できるという環境が、お母さん方にとっての安心感につながっています。

鳳徳学区では各種団体との連携はもちろん、このような学区内の福祉施設も巻き込んだ取り組みの充実がはかられ、良好な関係を構築していくことで地域力向上へとつながっています。



紫野児童館で開催される「びよっこ広場」

元町学区 「誰もが気軽に集える居場所づくり」

元町会館は、毎週火曜日、心待ちにした学区の住民が続々と集まり賑わいます。1階はカフェでのおしゃべり、2階は映画をみたり、体操をしたり・・・世代を問わず、誰もが気軽に集える居場所として「火曜サロン」が開催されています。この取り組みは、誰もが安心して暮らせる元町をめざして発足した元町見守りボランティアのメンバーが中心となり、孤独・孤立をふせぐ活動として始まりました。

楽しい時間をともに過ごす中で生まれる人と人とのつながり・・・これが地域全体へとひろがり、住民同士の見守りの輪がひろがっています。



賑わいを見せる「火曜サロン」

楽只学区 「学区社協が母体のNPOによる高齢者の居場所づくり」

楽只学区では、学区社協を母体とする「NPO法人くらしネット21」が、北いきいき市民活動センターなどの管理運営のほか、学区社協の活動にも取り組んでいます。

佛教大学の食堂で開催される「高齢者の昼食会」。楽只学区は共同住宅に住んでおられる一人暮らしの高齢者も多く、孤立や閉じこもりになりがちでもあります。この昼食会は、それらを防止するための居場所になっています。

また、学区内の大きなイベント「長寿の集い」は関係団体の協力のもと開催され、地元の子どもなども交えた交流の場となっています。



佛教大学食堂で行われる、「楽しいすくーるランチ」(高齢者の会食会)

学区内の関係機関・福祉施設・大学などと協働で取り組むことで、さらに地域活動が広がっていくことが期待されます。

柏野学区 「多世代交流の取り組み」

柏野学区では、毎月第2土曜日に健康すこやか学級、配食サービスが実施されます。これらの事業で参加者や地域住民に配られるお弁当は、女性会を中心としたボランティアが作られています。

柏野学区の配食サービスの特徴は、柏野小学校の児童と一緒に配達に参加(年3回)することです。住民どうしの関係が希薄化しつつある中、この取り組みは、高齢者と子どもたちの交流の機会になり、配達先の高齢者にも笑顔がふれます。

また、全学区民がふれあう機会として、夏の盆踊り大会も実施されています。学区内の大きなイベントとして定着しています。

これらの取り組みのように、学区民がつながる・ふれあうことを大切に活動されています。



学区全体が総力で取り組む、「盆踊り大会」

紫野学区 「一人暮らし高齢者の組織化支援」

紫野学区では、一人暮らし高齢者が、生きがいをもって安心してくらしをいける仕組みとして結成された「パープルフレンズ」を中心に、孤立を防ぐ取り組みがすすめられています。

活動内容は、歌づくりや食事会、カフェ運営など、みんなで話し合ったいことを決め、「私たちが紫野を元気にする!」と紫野を愛し、パワーのあふれるグループとなっています。

また活動にスパイス的役割を果たそうと関わる学生グループ「むらさきっず」のメンバーからも「第二の故郷」と紫野を愛する声

が多くきかれ、この取り組み自体がみんなの「こころの居場所」となっています。



パープルフレンズが運営する「カフェ紫野」

紫明学区 「イベントを通じた他世代交流の場づくり」

季節を楽しむ作品づくりをとおして、会話に花が咲く紫明のすこやか学級。参加者は月に2回のこの時間を心待ちにされています。クリスマスのリース飾り、干支の置きもの、ちぎり絵・・・孫にあげたり、玄関に飾ったり、つくったあとも気持ちを明るくしてくれます。

それらの作品は、子どもたちが学校でつくった作品とともに、紫明学区で毎年秋に開催される、子どもから高齢者までもが楽しみに集う「紫明文化祭」のふれあい作品展でも展示されています。

その作品展をつうじて、さまざまな世代が参加・交流し、地域における人と人とのつながりが築かれ、地域・学校・家庭のふれあいの輪が広がっています。



健康すこやか学級で作品が作られます



できた作品は、ふれあい作品展で展示されます

中川学区 「社協活動を若い力で盛り上げる」

中川学区では、数年前より社協のメンバーが若返り、組織のさらなる強化と活動の充実をはかられています。会議などでは、地域の課題や取り組みの意味について、ひとつひとついねいに話し合われています。

活動するうえで大切にされているのは、住民の方とのふれあいです。敬老事業の記念品や健康すこやか学級のチラシは、学区社協のメンバーが高齢者のお宅に訪問、直接手渡しし、そのときに声かけや目配りをされます。

その結果、以前は立ち話程度だった人にも、社協のことを知っていただき、相談されるようなケースが増えています。

今後も、住民により親近感を持っていただけるような活動をしていきたい、高齢者にとって住みやすいまちづくりをしていきたいと、意欲的に取り組んでおられます。

小野郷学区 「大学生との交流による活動の推進」

小野郷学区は、佛教大学の学生有志との協働による活動をされています。

夏まつり、運動会、岩戸落葉神社ライトアップといったイベントへの参画や、一人暮らし高齢者宅へのお弁当配布、また、学区内の2会場で開催される「井戸端サロン」での高齢者との交流など、その機会は多くなっています。

それらは、大学生が企画段階から関わったり、地域の高齢者とのふれあいを重視したりする

など、「参画」することを大切にしているため、地域と大学生とのつながり、絆が深く強くなっています。

大学生の若い力が地域の活性化の一助になっているとともに、大学生にとっても貴重なふれあい、体験、学びの場にもなっています。



「井戸端サロン」での、高齢者と大学生のふれあい

雲ヶ畑学区 「話し合いを大事に地域の絆づくり」

豊かな自然に恵まれた環境（北山三学区の1つ）である雲ヶ畑地域。ここでは、過疎、高齢化がすすむ中、地域のことを話す機会を重視し、豊かなコミュニケーションから行動が生まれることにより、住民同士の絆と連帯意識を高めておられます。

家庭で作られているいつものおかずを持参する蜚観賞会での企画がきっかけで誕生した雲ヶ畑名物「鹿コロケ」、公共交通機関であるバス廃止に対して住民主体でのバス運行・・・さまざまな視点から安心して住み続けられる取り組みをすすめられています。また北部三学区の山間地域同士での情報交換の場も、北区役所の協力も得ながらすすめられています。

柘野学区 「普段の活動を大切に」

柘野は、宅地開発がすすみ、人口が増加している学区です。夏まつりなど、地域の大きなイベントでは、子どもからお年寄りまで集まり、大変なにぎわいを見せています。

柘野は人口が多く、広いエリアで、今後も地域の状況が変化していくことが予想されますが、そこで活動されている皆さんは、「まずはできることから大切に」と、近隣を中心とした住民の方々との普段のおつきあいを重視されています。

たとえば、認知症の一人暮らし高齢者のお宅へも、さりげない目配りをされます。そうすることで、その方が徘徊などにより行方不明になられても、過去の情報からすぐに発見されることがあるそうです。もちろん、活動全般において、地域包括支援センターなどの関係機関・施設などとの連携も密にとられています。

「まずは、地域やそこに住む人たちを知ることからはじめよう。」「自分たちが地域に積極的に出ていこう。」と、日々の活動に熱心に取り組まれています。

これからは、町内会長ともさらに連携を強め、安心安全のまちづくりのために、意欲的に活動されようとしています。